

## “芸術”は常に進化するものでなくては

アニック・マツシス (ソプラノ歌手)



photograph by Gianni Ugolini

スターの条件をすべて備えたオペラ歌手に久々に出会った感がある。しかし、彼女の素直で率直な話しぶりや、優しさからは、厳しい世界で第一線に立つプリマドンナの気負いや激しさは全く感じられない。

しかし舞台の上では一変する。彼女の演じる『ルチア』には、世界中でプレミアが付いている。この役で二躍トップの座に躍り出た彼女の、狂乱の場は独壇場だ。

コロラトゥーラ・ソプラノとして名を馳せた彼女の可憐な声も、今やヴェルディなどの深い感情表現が要求される役柄が似合う。今回の来日公演でのジルダ役でも、父への想いと恋人を慕う心の間で揺れる女心をドラマティックに歌い上げた。

「人間の感情や想いもその日、その瞬間で違うものですよ。同じ役を演じて、毎回何か違うエッセンスを加えて聴衆を驚かせるのよ。音楽的なこと、演出上のことであれやこれやといろいろ試してみるのが、芸術ってそういうものですよ。常に進化するものでなくてはね」。

フランス人らしい彼女のアクティブな芸術論だ。

取材協力・新国立劇場

新国立劇場の「リゴレット」ジルダ役で来日。「スタッフは皆フレンドリーで、優秀。世界でも珍しいくらいすばらしい劇場」とこのオペラハウスを高く評価する。